

これまでの議論

麻生老人福祉センターへ
現地調査の実施（9月10日）

施設利用者がボランティア情報等を入力しやすい環境かどうかを把握し、ボランティア活動へ促す方法を探った。

【結果】

利用者は卓球など何らかの目的を持って施設を訪れているので、ボランティア活動等の他のことに関心を持ってもらうのは難しい環境に置かれている。

ただし、ボランティア活動の魅力、ボランティアを必要としている活動分野、相談窓口等の情報を提供することによって、利用者の関心を引くきっかけになる可能性もある。

【方向性】

「麻生区健康づくりのつどい」の結果を踏まえて、情報提供の方法を検討する。
※今回の調査がきっかけで、区民会議委員の働きかけにより、市民活動のチラシ（市民交流館やまゆり）を麻生老人福祉センターに配架する取組が始まりました。

今後の検討事項

健康づくりのつどいの意見交換の検証

審議内容等に係るフォーラムの検討・開催

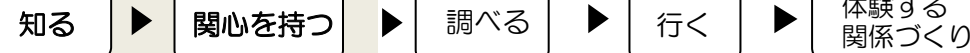
ボランティアの活動促進のための具体的な検討

提言取りまとめ

提言（報告書作成）

7. 仕組み・仕掛けのイメージの検討

STEP 2の過程を5段階に分け、STEP 3につなげる仕組み、仕掛けのイメージを検討した。



「知る」「関心を持つ」の段階では、ボランティアのPRに有効となるキャッチフレーズが必要。
→「ボランティアは健康寿命を延ばす」（仮設定）

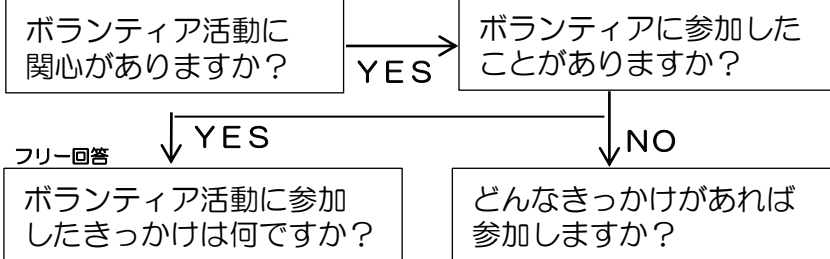
※健康を維持するためには、「体」の健康面だけではなく、生きがいや仲間作りなどの「心」の面も重要であることを伝える。
※健康寿命＝健康上の問題で日常生活が制限されることなく、健康的に生活できる期間のこと

8. 区民との意見交換の実施（10月31日）

健康に関するイベント「麻生区健康づくりのつどい」でブースを開設しました。

「ボランティア活動に参加して健康寿命を延ばしましょう！」というキャッチフレーズで来場者を集め、ボードを使って、区民とボランティアについて意見を交換しました。

YES/NO 男女別



127人の意見を
集めました



気軽に参加できるようになるには何が必要だと思いますか？

定年になったら考えたい

夫が参加しています！

参加したいけど、どこに情報があるのかわからない

1人では不安・・・友達に誘われたら参加する！

ボランティアって何だろう？

あまり関心はないな・・・

趣味で忙しい

キャッチフレーズに共感！

東京五輪のボランティアに参加したい！

詳細な結果は次回部会で検証



4. 審議対象の検討

ボランティアの意識・行動の変化を5つの段階に分けて検討した。

STEP 1

・何らかの活動をしたいと思っている。

STEP 2

・何らかのきっかけで一歩を踏み出してみる。

STEP 3

・活動のプレイヤーとなる。
・活動を通じて、仲間や居場所ができる。

STEP 4

・リーダーの影響を受けて、プレイヤーも成長する。
・自発的な心が芽生える。

STEP 5

・マネジメントやリーダーになり、同じ意識を持った仲間を集める。

5. 具体的な審議内容の設定

ボランティアをしたい人や関心のある人がボランティア活動への一歩を踏み出せるように、受け取りやすい情報発信の仕方やルートなど、気軽に参加できる仕組みを検討する

6. ターゲットの設定

何をやりたいのかわからない「もやもや」している
シニア世代（60～70代）を想定

1. 背景

■市民活動・地域活動を活性化するためには、活性化支援と合わせて、実際に活動する担い手づくりが必要である。

■地域におけるコミュニティづくりと合わせて障害者や高齢者等が住みやすいまちづくりが必要である。

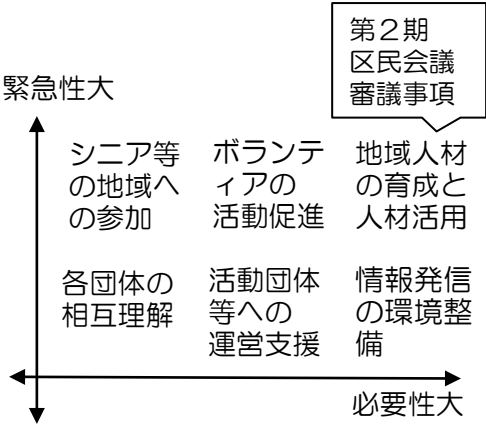
2. 方向性・課題の抽出

○方向性

- 市民活動の担い手づくり・活性化
- 地域活動の活性化
- 高齢者・障がい者が外へでる機会

○課題の抽出

各意見を6つの項目・課題に分け緊急性と必要性を基準に検討。



3. 審議テーマの決定

○優先テーマ

ボランティアの活動促進

○優先テーマ

情報発信の環境整備

シニア等の地域への参加

○全体へ係る課題

市民活動等への運営支援

各テーマは相互に関連